

国語

注意

- 一 答えは、すべて、解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。
- 二 漢字はかい書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- 三 問題用紙は二枚あります。

【1枚目】

受検番号

一 次の文章を読んで、後の1〜7の問いに答えなさい。

a にあったことを左側に、これから起きる b を右側に取った時間軸を考えると、私たちは原点である c にいる。 c から a に遡さかのぼっていくと、昨日、一年前、縄文時代、さらに、人類の誕生の六〇〇万年前、生命の誕生の三八億年前、地球誕生の四五億年前、太陽系の誕生の六〇億年前、そしてすべてのはじまりの一五〇億年前のビッグバンへと続く。同じように自分が現在 いる場所 が原点となる空間軸を考えると、そこから (A) 自分の家族、住んでいる町、地域、国、地球、そして、太陽系、銀河系、そして膨張①を続ける宇宙のへて……と遠ざかっていく。一方で、(B) 個体として自分の体から、臓器、器官、細胞、細胞核、DNA、分子、原子、原子核、中性子、(C) ついに究極の素粒子といわれるクウォークまで、現在の知識で遡っていくことができる。

しかし、日常生活の中では、私たち人間の関心はたいいてい時間軸、空間軸の原点にあって、自分や家族、今日や明日など、原点に近いところしか視野に入らない。一度外に出てしまつたら二度と元に戻せないのだから、パンドラの箱の中に閉じこめておきたい科学技術もある。そうである以上、自分がいる時空間の原点だけでなく、少し遠くはまだ思いを馳せる必要があるだろう。たとえば、自分の孫の世代、来世紀、あるいはもつとずっと遠い将来には、生態系は、地球はどうなっているのだろうかと考えてみる。同時に、はるか昔のことも考えてみる。この地球はどのようにしてできたのだろうか。生命はどのようにして発生したのだろうか。私たち人類はどのようにして生まれてきたのだろうか。これらの思索をもとに、どんな科学技術を発展させるべきなのか、人類のためによいとされることや、ほかの生態系や地球全体にはどのような影響を与えるのかを考えてみることも大切であろう。ただむやみに研究を推し進めるだけでなく、広い視野で、長い時間を見通す想像力を駆使しつづめることを考える科学者が求められている。また、そのような科学者を育てることも将来に対する私たちのセキニンである。真の科学者には、創造力とともに想像力が求められる。

(注) ビッグバンは宇宙のはじめに起こったとされる大爆発。クウォークはクォーク。物質をつくるものになっている最も小さな粒子の一つ。(黒田 玲子れいこの文章による。)

1 線部①〜⑤のカタカナの部分に漢字に、漢字の部分にひらがなに直して書きなさい。

2 a c に入る最も適当なものを、次のア〜エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号の箇所には同じものが入ることとします。
ア 未来 イ 空間 ウ 現在 エ 過去

3 の「いる」と同じ用法のものは、線部ア〜エの中のどれか。最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

4 次の表現は本文中のどこに入れるのが最も適当か。(A)〜(C)の中から選び、記号で答えなさい。
「方向を逆転してミクロへ向けると、」

5 ……線部について、本文の内容から、「パンドラの箱」に入れておきたい科学技術は、どのようなものであると考えられるか。次のア〜エの中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。
ア 地球や人類にとって、まったく関係のないもの。
イ 地球や人類にとって、かけがえのない大切なもの。
ウ 地球や人類にとって、害のあるもの。
エ 地球や人類にとって、害のないもの。

6 線部と対立する内容を、具体例を含んで、本文中から二十五字以内で抜き出して書きなさい。

7 線部について、このような「想像力」が必要であるのはなぜか。本文中の言葉を用いて四十五字以内で書きなさい。ただし、「科学者は、将来や過去についての思索をもとに、」で書きはじめ、この部分は文字数に含まないこととします。

二 あなたの学級で、日常生活の中で心がけたいことを「今月の目標」として示すことになり、次の二つが来月の目標になりました。どちらか一つについて、あなたの考えを後の注意にしたがって書きなさい。

目標
・生活の中の無駄をなくそう。
・よりよいマナーについて考えよう。

《注意》(1)文章の中に、あなたのとりあげた目標を「」をつけて示すこと。
(2)とりあげた目標について、具体例を用いてあなたの考えを明らかにすること。
(3)原稿用紙の正しい使い方にしたがって、百字以上、百四十字以内で書くこと。

三 次の文章を読んで、後の1〜6の問いに答えなさい。

- I 彦根城は、小さいが美しい城だ。わたしが高校に通っていたころは、入場料をとられることもなく、どこからでも自由に城山に登れた。わたしはそこを散歩するのが好きで、よくひとりで城山に登った。
- II ゆつたりした石段を登っていくと、道はすぐ、と茂った樹々にカコまれ、と濡った土のおいのする風が吹いてくる。城山の樹々は、籠城の際の役に立つようなものを全国からアツめてきたといわれ、そこらで見かけない見なれぬ樹々が多かった。その樹の一本一本を、見上げたりさわったりしながら、ぶらぶらし、ときどき草かげで動く虫たちを、しゃがみこんで眺めた。城そのものよりも、城を取りまく樹や草につつまれるのが好きで散歩に出かけたのだ。
- III 「友だち」のことを思うとき、そんな人間以外の草や木、石ころや虫などのことも思い浮かんでしまうのは、小さいころ、まわりの自然を友人のように感じていたからかもしれない。
- IV 陰の部分の友だち——ひとにいえぬことを、かわって聞いてもらい、なぐさめてもらえるような、人間以外の友——日記や、星々とはまた別の、光の部分でおつきあいたくなる「人間以外の友」もある。
- V 小説や詩、音楽や絵にふれたとき、いい友だちにめぐりあつた気持ちになることがある。アみものやプラモデルづくり、機械いじりなどだつて、それが好きなひとにとっては、友だちと出会っている気分だろう。わたしの場合は、それが草や樹、虫や鳥、あるいは石ころや水たまりを眺めることだつた。
- VI ロマンチックな気分とも少しちがう。科学図鑑を片手にとりながらも、まわりの風物と自分が、いつしよくたになるような原始的なたのしみとでもいったらよからうか。
- VII アニミズムということばがある。辞書をひくと、「自然界のあらゆる事物が、生物と無生物とを問わず、生命をもつとみなし、それに精霊、とくに靈魂觀念を認める心意」とある。そんな、アニミズムに近い感じだ。
- VIII 子どものころは、たいていだけれども、「生物と無生物とを問わず生命をもつとみなす」体験をもつ。気がるに草や虫に話しかけたりする。わたしもそんな子ども時代をすごし、それが相性が良かったのか、未だにつづいているというように、な具合なのだ。

(工藤 直子の文章による。)

(注) 籠城＝敵にかこまれて、城の中にたてこもること。
精霊＝山・川・動物・植物など、自然界にあるすべてのものにやどっているというたましい。
觀念＝ある物事について頭の中持っている意識や考えの内容。

- I 線部①〜⑤のカタカナの部分漢字に、漢字の部分ひらがなに直して書きなさい。
- 2 線部について、「わたし」が散歩するのが好きだった理由を最もよく表している一文を探し、はじめの五字を抜き出して書きなさい。
- 3 に入る最も適当なものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア さつそう イ うつそう ウ すくすく エ どんより
- 4 線部とは、どのようなことであつたのか。Vの段落の中の言葉を用いて、四十字以上、五十字以内で書きなさい。
- 5 線部について、「ロマンチックな気分とも少しちがう」気分を十字で表現した部分を、VI〜VIIIの段落の中から抜き出して書きなさい。
- 6 本文では、自然の中のいろいろな事物に生命の存在を感じた体験が示されている。同じように感じて表現している短歌はどれか。最も適当なものを、次のア〜ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア み吉野の 高城の山に 白雲は 行きはばかりて たなびけり見ゆ
イ 二人行けど 行き過ぎ難き 秋山を いかにか君が ひとり越ゆらむ
ウ 都なる 荒れたる家に ひとり寝ば 旅にまさりて 苦しかるべし